

知事記者会見の概要

日 時：令和6年10月23日(水) 10:00～10:41

場 所：502会議室

出席記者：12名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から2件の発表があった。

その後、代表・フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

- (1) 一般国道344号の全面通行止め区間の通行再開について
- (2) 令和6年7月25日からの大雨災害に関する復旧・復興対策会議について
- (3) 令和6年度新規就農者動向調査の結果について

代表質問

- (1) 県産農産物の輸出拡大について
- (2) 県産農産物販路拡大の新たな取組みについて

フリー質問

- (1) 発表事項1に関連して
- (2) 発表事項2に関連して
- (3) 電動モビリティシステム専門職大学の来年度の学生募集について
- (4) 衆院選の投票時間短縮について
- (5) 水稻新品種の育成状況について

<幹事社：山新・時事・SAY>

☆発表事項

知事

皆さん、おはようございます。寒暖の差が激しい日々が続いております。県民の皆様には、くれぐれもご自愛くださいますようお願いいたします。

私から3点発表がございます。

まずは一般国道344号についてです。一般国道344号の酒田市から真室川町までの区間につきましては、令和6年7月25日からの豪雨により道路が崩壊し、現在、全面通行止めを行っております。

災害発生直後から、地元の建設会社をはじめ、建設業協会の皆様からのご協力のもと、道路啓開を進め、7月27日に酒田市側約2.5km区間、そして7月31日に同じく酒田市側約6.5km区間につきましては、地元の方や緊急車両などの通行を可能といたしました。また、一般車両の通行につきましては、9月30日に酒田市側の11kmにつきましては、全面通行止めを解除いたしました。

このように順次復旧を進めてきたところですが、この度、10月25日金曜日の午前11時に残る12.1km区間の通行を再開できる見込みとなりました。

この結果、最上と庄内の間を相互に行き来できるようになりますので、お知らせするものであります。

あらためて関係者の皆様のご尽力に感謝申し上げます。

なお、現状は応急的な対策が完了した段階でありまして、幅員を縮小して片側交互通行としている箇所が多数ございます。そのため、積載量が4tを超えるトラックなど、車幅が2.2m以上の車両につきましては、引き続き通行止めとさせていただきたいと考えております。

また、冬期間の通行につきましては、雪崩予防柵などが崩落し、復旧には相当の期間を要するため、積雪状況によっては通行の安全を確保する観点から、再度、通行止めとせざるを得ないと考えております。

引き続き、雪崩予防柵を含め、全面的な復旧工事を進めてまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

2点目は、大雨災害に関する復旧・復興対策会議についてです。

7月25日の大雨災害から、まもなく3か月を迎えます。

県では、これまで政府や全国の自治体、民間企業・団体など、多くの方からご支援をいただきながら、まずは一日も早く日常生活を取り戻していただくため、被災者のニーズを把握し災害への応急対策を進めるとともに、インフラの復旧に取り組んでまいりました。

また、今回の大雨災害では、最大で3,383人の方が避難所での生活を余儀なくされましたが、戸沢村、鮭川村に建設された木造の応急仮設住宅への入居などに伴い、避難所での生活が概ね解消されております。

さらに、復旧工事に向けた公共土木施設等の災害査定も始まっており、いよいよ本格的な復旧・復興の取組みを強力に進めていく段階になってきたものと考えております。

このため、災害対応の全庁的な体制につきましては、「7月25日からの大雨に関する災害対策本部」から、明日10月24日に「復旧・復興対策会議」に移行することといたします。災害復旧事業の進捗状況を全庁的に確認・共有するとともに、県民の皆様にも随時お知らせをしながら、復旧・復興に取り組んでまいります。

なお、現在も酒田市と戸沢村におきましては、引き続き、災害ボランティアを募集しておりますので、県内外の皆様方から、復旧・復興のためのお手伝いに参加していただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

3点目であります。新規就農者についてです。令和6年度の新規就農者動向調査の結果をとりまとめましたので、お知らせをいたします。

お手元に資料を配布してありますので、併せてご覧になってください。

令和6年度の新規就農者は、383人で昨年度を5人上回りました。調査を開始した昭和60年以降最多となったところです。また、東北で見ますと9年連続で1位となっており、大変喜ばしいことだと思っております。

これは、本県がさくらんぼやつや姫をはじめ、魅力ある農産物を有しているとともに、これまで関係機関・市町村と連携して、就農の動機付けから定着までの各段階に応じたきめ細かい支援を行ってきた成果と捉えております。

農業従事者が年間1,400人減少している中にありまして、新規就農者数は、まだまだ足りない状況であります。今後とも、より多くの方に就農してもらえるよう、引き続き関係機関・市町村と一緒にしっかりと取り組んでまいりたいと考えております。

なお、詳細については、後ほど農林水産部から説明をいたします。

私からは以上です。

☆代表質問

記者

おはようございます。山形新聞の鈴木です。よろしくお願いいたします。

私からは、農林水産関係2点についてお聞きします。まず1点目ですが、先日発表がありましたとおり、2023年度の県産農産物の輸出量・輸出額がともに過去最高を更新しました。アジアや北米向けの米の輸出量増加と牛肉の需要が顕著だったことが主な要因だったようですが、今後の県の輸出拡大への考え方、そして重点として期待する品目、国・地域などについて教えてください。

続けて2点目も質問させてください。もう1点は、県は、12月にも県産農林水産物の加工品をメタバース空間でPRする展示会・商談会を初開催するということですが、その準備状況についても、どのように進んでらっしゃるのか教えてください。

知事

では、まず1点目からお答えいたします。

令和5年度の県産農産物の輸出につきましては、輸出量は2,474t、輸出額は11億4,800万

円となり、いずれも過去最高を更新しました。主な輸出品目は「米」「牛肉」「りんご」「もも」であります。主な輸出先は香港、台湾、シンガポール、中国となっております。

今後、ますます力を入れていきたい品目としましては、輸出量が最も多い「米」を中心に、「牛肉」や今後の輸出が期待される「さくらんぼ」などを想定しており、引き続き、その品質の高さと美味しさをアピールしてまいりたいと考えております。

輸出先としましては、山形県国際戦略の重点地域であります香港や台湾などのアジア諸国の取り組みを一層強化いたします。そのほか、北米など需要が期待できる地域につきましても、トップセールスなどでこれまで築いてきた人脈を活かし、輸出拡大につなげてまいりたいと考えております。

2点目でございます。県産農林水産物を使用した加工食品の販路拡大を図るため、今年度から新たに、メタバースを活用した展示会や商談会を実施することとしております。今回出展するメタバース展示会は、12月7日から22日まで開催され、期間中、国内外から130万人の来場者が見込まれる国内最大級のメタバース展示会であります。

本県では、「山形のうまいものメタバース展示会」として、出展することとしております。出展者は、食品加工業を中心に14社が参加し、出展商品は、加工食品43品となっております。

現在、12月の展示会開催に向けてメタバース展示会場の制作などの準備を進めているところです。また、出展した商品につきましては、令和7年2月下旬にメタバース上での商談会も予定しております。

なお、展示会におきましては、出展商品の紹介の他にも、さくらんぼやラ・フランス、つや姫・雪若丸などの県産農産物のPRに加え、「やまがたフルーツ150周年」の動画や観光情報を配信するなど、山形県の農産物や観光の魅力を一体的に発信してまいります。

この事業は、今年度が初めての取組みになりますので、事業の効果等につきましては、十分に評価・検証を行いながら、今後の取組みにつなげてまいりたいと考えております。

記者

ありがとうございます。

今後の輸出拡大の重点品目に、お米ということでありましたが、確か来年が、つや姫が海を渡って確か10年という、輸出して10年の節目の年になると思うのですけれども、このことについて、10年という節目で何か考えていらっしゃる、今の段階で考えていらっしゃることはありますか。

知事

そうですね。確かにつや姫が海を渡って10年、来年が10周年となります。さくらんぼ150周年のことは、いろいろ取組んでいるようではありますが、つや姫10周年についてどうしているか、ちょっと農林水産部にまだ聞いておりませんので。後でちょっと、取組みの状況ですね、予定があるかどうかなどを聞いてみたいと思います。

今、答えられますか？ まだじゃないですかね。全然聞いていないですけど。次長おりますが。

農林水産部次長

農林水産部の高橋です。今年で9年目ということで、今年度も部長をトップとしたハワイ等でのセールスを行ってきております。来年度が10周年になりますけれども、それに向けてどういった形でトップセールス等のプロモーションができるかというのを、まさに今検討している段階でございます。

記者

はい、ありがとうございます。幹事社からは以上です。

☆フリー質問

記者

読売新聞の仲條です。よろしく申し上げます。

国道344号のことからお伺いします。多数の通行止めがあった中で、現場の技術者さんですとか、県土整備部の皆さんのお力で、順次通行止めを解除している状況かと思えます。一番大きいと言うか、注目が集まっていたのはこちらだと思うので、344号の通行止め解除というのは、復旧・復興に向けた一つの大きなステップなのかなと思うのですけれども、冒頭発言でもいただきましたが、あらためてこの通行止め解除の意義について一言お願いできないでしょうか。

知事

はい、わかりました。

7月25日からの大雨、これは本当に記録的な豪雨となりました。最上、そして庄内にかけてですね、線状降水帯が2度も発生するというようなことで、山間部もズタズタになっておりました。上空からも私、見てまいりましたが、本当に山が崩れていたり、林道がですね、崩落と言いますか、通れない状況になっていたりということで、多数ございました。最上地方と庄内地方を結ぶ大動脈でありますので、ここは本当に多くの方々が通行再開を期待していたと思います。それがですね、一生懸命官民一体となって対策をしてきた結果、片側通行は多数あるけれども、一応通れるようになったということにつきまして、本当に一つの大きなステップになったなというふうに思っています。

やはり、復旧・復興を進めていく上で目に見えるものですね、そのことが被災された皆さんとか県民の皆さんにとって、大きな力になると思いますので、現実的にも344号が通れるようになるということで、大変喜んでいただける方々がいらっしゃいますし、復旧・復興への第一歩というような気がしております。

記者

ありがとうございます。

もう1点ですね、災害対策本部の廃止と新たな「復旧・復興対策会議」の創設というところ

なのですけれども、過去の災害で、都度大きい場合は、対策本部というのを設置されて取り組まれたかと思うのですけれども、こういう、復旧・復興という観点での全庁を挙げた会議体という組織を立ち上げるというのは過去にあったのでしょうか。

知事

私の記憶するところでは、ないかなあと思っております。

お聞きになりたいところは、「その心は」というところだと思いますけれども、あまりにも大きな、過去最大の被害ということで、本当に心が折れてしまいそうな方々もいらっしゃいます。2年前、4年前に続いて、3回も水害に遭っている方々もいらっしゃいますので、本当にこれからやはり1歩1歩、前を向いてですね、進んでいただけるといような状況をね、一緒になって作っていかなくちゃいけないという強い思いがありまして、やはり、ずーっとその災害対策会議ということをするよりは、ある一定の段階でそこを「復旧・復興対策会議」というふうな、名称も変えてですね、前向きに一緒に進んで行きましょうというメッセージみたいなものになるのかなというふうに思っています。

今回のこの時期につきしては、やはり何と言いましても、避難所、1次避難所で避難生活を余儀なくされていた方がいらっしゃいましたけれども、ようやくですね、2次避難というところに移行されたということを知っておりますので、まだまだ困難な生活ではあるとは思いますが、まずそのすべての避難所が閉鎖されたというようなことを一つのステップ、ワンステップ上がりますというようなことで、この会議に移行するということを考えてました。

そして、ボランティアとか義援金とかですね、県民の皆さんみんなでやはり一緒になって支えていただきたいと思いますし、ただ一方で被害に遭わなかった地域もたくさんありまして、これから年末になります。ですから、災害のあった年なので、忘年会もやめようかなとか、そういうようなところももしかしてあるかもしれませんけれども、経済は回さなければなりませんので、これはコロナで本当に実感しました。

やはり、皆さんそういった日常的ないろいろな催しをですね、しっかりやっていただきたいという思いもあります。やはり、前向きに進んでいきたいと思いますということで復旧・復興対策会議に移行ということ考えたところです。

記者

わかりました。ありがとうございます。

記者

山形新聞の鈴木です。よろしくお願ひします。

飯豊のですね、電動モビリティシステム専門職大学が来年度からの入学生の募集をしないということを明らかにしました。県としましても産業界に与える影響というか、今後の期待というのが大きかったと思うのですけれども、知事の受け止めに教えてください。

知事

はい。電動モビリティシステム専門職大学は、電気自動車と自動運転に特化した唯一の高等教育機関であります。県内企業の次世代自動車関連産業への参入促進に取り組んでいる本県にとりまして、強みになるものと大変期待をしているところであります。

10月21日に同大学のホームページ上で、令和7年度入学者選抜による学生募集を停止したことを発表したと承知をしております。

県ではこれまで、地元の飯豊町と連携し、同大学の学生募集にかかる周知活動への協力などの取組みを行ってきております。今回の学生募集停止の発表は、非常に残念だと思っております。

同大学の運営が今後どのようなようになるかにつきまして、地元の飯豊町からもお話をお聞きしながら、動向を注視してまいりたいと考えているところです。

記者

時事通信の海老沼です。よろしくお願ひします。

衆院選の投票時間についての質問になるのですが、先週、千葉県熊谷知事が投票時間、職員の負担とか人手不足とか、そういったところも考慮して、短縮すべきだといったような発言をFacebookの中でされたんですね、山形県内ですと、今回24市町村のほうで繰り上げだったり、最大2時間投票時間の短縮っていうようなところだとは思いますが、有権者としては投票時間が長いほうが投票に行きやすいという面もあるとは思いますが、知事として投票時間を短縮することについて、どういったお考えをお持ちなのか、教えていただけますでしょうか。

知事

はい、そうですね。やはり繰り上げた市町村にはですね、おそらく、例えば「何時過ぎたらもうほとんど人が来ない。その前にほぼ終わっている」というようなね、そういう現実ということもお考えになって、そういうふうにされたのかなというふうに推察いたしますので、やはり現場の状況に応じて繰り上げるというのは有りかなというふうに思っています。

ただ、様々な職業があつて、時間遅くまで投票所に足を運ぶ方が多いような、そういう地域にとっては、やはり有権者の皆さんの状況に応じて、長くとっていただくほうがいいのかというふうに思います。あと、それぞれ当日ですと、様々なお仕事の状況などで、なかなか行けたり行けなかったりするかと思ひますが、期日前投票というのがありますので、そこも大いにご活用いただいたほうがいいのかというふうに思っています。

すみません、だから一律で考えるのではなくて、それぞれの地域の状況に応じて繰り上げもよろしいのではないかとこのように思っています。

記者

ありがとうございます。県内は、今まで国政の選挙で、4回連続投票率全国トップだったと思ひますが、投票時間の短縮とか、そういったことが投票率に影響するっていうことも

現場に応じての変更なら、特にそういった関連ないといったお考えなのでしょうか。

知事

そうですね、投票率が全国1位っていうのは、本当に誇らしいことでもあります。やはり民主主義の根幹とも言われる投票行動ですね、しっかりと行使しているということは真面目な、勤勉な県民性の現れでもあるんですけども、とても誇らしいことだと思っておりますので、今回も多くの皆様投票所に足を運んでいただきたいと、そしてご自分の権利をしっかりと活用していただきたいというふうに思っています。

投票時間を繰り上げることでね、どのように影響するということは、一方では心配もありますけれども、ただ、投票する場所ですね、都市部ではいろんなところ増やすというようなことも心掛けておりますね。大学でありましたり、人が集まる場所でありましたり、そういったところでも投票できるようになっていると思いますので、様々やはりそういったことも駆使しながらですね、投票率を上げていくということは大事ななと思いますし、投票（時間）を繰り上げるというような地域のところはやはり、繰り上がるまでしっかりとその時間まで、あるいは期日前（投票）というようなことで、投票をしっかりとさせていただきたいというふうにですね、周知をして促していただいて、投票率は上げていただきたいなというふうに思っています。

記者

ありがとうございます。以上です。

記者

河北新報の奥島です。よろしくお願ひします。

まずちょっと前に出ていた復旧・復興会議の話なんですが、復旧・復興会議に移るにあたって、知事として最も重要視している最大の課題というのはどういったところになるのでしょうか。復旧・復興会議で最も重視して取り組まなければいけない今後の課題です。

知事

今後ですね。今後はやはり、復旧・復興していかなければいけないということで。どのように復興していくのか、復旧していくのかということをごすね、全庁でしっかり共有してあたっていきたく思いますし、県民の皆様やはりそれを知っていただきたい。どのくらい進んでいるかというようなことをごすね、「全庁的に」というのは内部ですので、それはできるのですけれども、やはり県民の皆様はまだ「復旧・復興終わっておりません」と、本当に何年もかかることなんだというようなことをごすね、知っていただきたいというのがやっぱり一番の願ひですね。一緒になって応援していただければというふうに、そこが一番です。

記者

わかりました。あともう1個、話題変わるのですけども、先ほど輸出の話で、米の話題も出てましたが、今、県が取り組んでいる水稻の新品種ですね、今年、実証田で作付を行ったとい

うふうに聞いているのですが、収穫も終わったと思うのですが、生育状況でしたりとか、そういったことについて知事のほうに報告は入っておりますでしょうか。

知事

詳しいことは、そうですね、それよりも「これがそのお米です」と言って、見せてもらって、そしてそれを炊いたものを食べさせてもらいました。「雪若丸」「つや姫」「はえぬき」と比較をしながらですね、あと収量などについてもお聞きをしました。そういうところですね。

記者

知事としては、感想というか手応えはいかがでしたか。

知事

それは1回しか見ていないんですけども、つや姫や雪若丸よりも白いんですよ。すごい白い米だなという。ちょっとびっくりしましたね。

記者

気候変動が進む中で、1日も早い導入というのが求められていると思うんですけども、導入時期については、今おっしゃられることはあるのでしょうか。

知事

時期については、やはりいろいろ検討している段階かと思います。でも皆さん待っていると思いますのでね、なるべく早くいろいろ進めていただければなと思います。

記者

NHKの岡野です。よろしくお願ひいたします。

すみません、何度も同じ質問というか、また災害の話になってしまうんですけども、今ですね、避難所があるのは二次避難所のみで、まだ何名か避難されていると思うんですけども、明後日で3か月経つ中で、こうやって復旧もいろいろ進んできている中で、まだ当然やるべきことはたくさんあると思うんですけども、知事としての意気込みと言いますか、先ほど県民と一緒にあって応援していただきたいともあったんですが、「こうしていきたい」というところをあらためてお聞かせいただきたいのですが。

知事

そうですね、何しろ本当に過去最大の水害でありました。インフラの復旧・復興はもちろんでありますけれども、被災された県民の皆さんのその生業ですね、住むところ、そしてお仕事、いわゆる生業というものについて、やはり日常を取り戻していただくまで、やはり何らかのできる限りの支援をしていければなというふうに思っています。

一度災害が発生すると本当に何年もかかる復旧状況と言いますかね、それを経験しているん

ですけども、例えば農地などは1年ではなかなか再開できなかつたり、何年もかかる場合がございますので、そこで離農するというような方が出ると、本当にご本人も大変つらいと思いますし、私どももやはり続けていただきたいなという思いがありますので、本当にいろんな段階で相談できる体制でありましたり、これは市町村やJAなどの関係機関と一体となつてですね、進めていくことが大事かなと思っています。

やはり生業あつてこそその生活であると思いますので、そのところをやはりみんなで支え合つて日常を取り戻していただくように、一生懸命全力で取り組んでいきたいというふうに思っています。

記者

ありがとうございます。すいません、もう少しなんですけれども、復旧・復興会議に明日から切り替えられるという、これは何か基準があつてとか、何がどうなつたからというその理由ですかね、それをあらためて教えていただけますか。

知事

はい。先ほど申し上げたんですが、やはり一次避難所が閉鎖されたというふうに、20日で一応全部閉鎖になる見込みだということを知っていましたので、そういう状況がきちんとなつてから移行しようというふうに決めておりました。そこが一番です。

やはり一次避難所で皆様がまた本当に大変な状況にある中では、災害対策本部ということでやってまいりましたが、そこが閉鎖されて二次避難所に移行されたということが一番の切り替わるための条件でありました。

記者

ありがとうございます。あと最後に国道の、この酒田の北青沢から差首鍋までが全面通行止め解除というこれも、復旧工事が完全に終わるからということなのでしょう。

知事

これは25日に一応、なんとか応急対策で通れるようになるということではありますが、完全な復旧ではありません。片側通行の箇所も多いと聞いていますし、あと、雪崩予防柵が壊れたところもございますので、冬の間はまた閉鎖になるかもしれません。

積雪と春の雪解けというものを見ながらですね、また完全復旧に向けて、雪崩予防柵もしっかり復旧しながらということになりますので、まだまだ時間はかかると思いますけども、まずとりあえず雪が降る前の段階で一応通れるようになりましたということでお知らせをいたしました。

記者

なるほど。ありがとうございます。ということは、まだ県内で通行止めになっている県道なり国道はまだあると。

知事

はい、まだ何箇所かございます。

記者

わかりました。幹部の方、あとで現在の避難状況とか教えていただいてもよろしいでしょうか。よろしく願いいたします。ありがとうございました。以上です。

記者

何度も大変失礼いたします。読売新聞の仲條です。

知事がお召しになられている防災服なんですけれども、すっかり見慣れたというか目に馴染んだような感じもあるんですけれども、ただ、一方ですみね、知事は季節ごとの装いをなされていたかと思ひまして、早くそういう知事なんです、ファッションを見てみたいというような気持ちもちょっと、一抹あるものなんですけれども、避難所の閉鎖の話がありまして、復旧・復興会議のフェーズにも至るところで、知事はその防災服をお召しになられるのはいつくらいまでを予定していらっしゃるのでしょうか。

知事

そうですね、その復旧・復興会議までかなと思ひています。私も着慣れてしまつてはいるんですけれどもね、そしてやはり大変困難な状況にある皆さんとともに心は一緒にありますということをお示ししたかったのが、なるべく長く着ていたかったのですが、夏は大変暑いんです。冬は寒いんじゃないかなとは思ひんですけれども、本当に復旧・復興会議というところが一つのタイミングかなと思ひております。ですが、やはりしっかりとですね、復旧・復興に力を入れていくということには変わりはありませんので。

記者

復旧・復興会議が終わるまではということなんでしょうか。

知事

復旧・復興会議が明日。明日そこにチェンジしますので、明日までは着ます、と。そのあとはですね、場面に応じてということになるかと思ひます。

というのは、私がいつまでも災害、災害と言っていると、忘年会もやめようということになるんじゃないかなと。山形県民は本当に真面目でありますので、コロナの時にそれを感じたんです。もう本当に行動をですね、しっかり抑制してくれておりましたのでね。ただ、経済が回らないと困るといふのがありますので、やはり普通に行っている忘年会みたいなものは、皆さんどうぞ開催してくださいといふようなこともね、やはり申し上げたいかなと思ひています。